

光格天皇主催御会和歌年表 — 天明期編

盛 田 帝 子

要 旨

江戸時代中期から後期にかけて、数々の朝儀復興を成し遂げ、幕末まで続く宮廷歌会の基礎固めをした光格天皇は、宮廷の財政が逼迫するほどに和歌御会を催していたことが知られている。光格天皇にとって、和歌を詠むこと、和歌御会を催すことには、どのような政治的・文化的意義があったのか。その問いを解明する基礎的なデータとして、光格天皇が催した天明期宮廷御会の年表を作成・提示する。今回は天明期のデータを掲載した。底本には、光格天皇歌壇の一員、もしくはその周辺人物でなくては知りえない情報が注記されている国立国会図書館所蔵『内院和歌御会』（請求記号：853-177）、同じく国立国会図書館所蔵『内裏和歌御会』（請求記号：124-202）を用いた。

キーワード：近世和歌、光格天皇、宮廷歌会、近世中期堂上歌壇、歌人教育

光格天皇について

江戸時代中期から後期にかけて、数々の朝儀復興を成し遂げ⁽¹⁾、宮廷歌会の運営にみなみならぬ力を注いだ光格天皇は、生前に退位して仙洞御所に移り、院としてますます充実した歌道教育や御会の運営を行い、幕末まで続く宮廷歌会の基礎固めをした天皇である⁽²⁾。仁孝天皇、孝明天皇の時代になっても、光格天皇の再興した法楽歌会や御会の運営、御所伝受は脈々と受け継がれ、光格天皇の及ぼした影響は幕末にまで及ぶ。

明和八年（1771）八月十五日、閑院宮かんいんのみや典仁親王のりひとの第六王子として閑院宮家に生まれたさち祐宮さちは（光格天皇の幼称。諱は師仁もろひと、のち兼仁ともひと）、明和九年（1772）に聖護院宮忠誉入道親王の附弟となり門跡を継ぐはずだった。しかし、安永八年（1779）十月、

時の天皇であった後桃園の突然の崩御のために跡を継ぐこととなり、その年の十一月二十五日に踐祚^{せんそ}、翌年十二月四日に即位した。聖護院宮の門跡としての将来を定められていた光格天皇にとって、突然の御所に上がったの踐祚は、思いもかけないあつという間の出来事であったろう。それから三十九年間、宮中の内裏御所であつて、歌道を含め、天皇としての諸教育を受けながら、朝儀や御会などさまざまな改革を行い、朝幕関係においてもしだいに存在感を増してゆくこととなる。以下に挙げるのは、光格天皇が讓位する文化十四年（1817）四十七歳で詠んだ和歌である。

毎年愛花

ゆたかなる世の春しめて三十あまり九重の花をあかず見し哉

突然皇位継承者として選ばれ、急遽参内してからの三十九年を振り返って詠んだ感慨である⁽³⁾。充実した天皇時代がうかがえる。しかし、光格天皇が即位したころの宮中では、続く天皇の早世に心を悩ませていた人物がいた。後桜町院である。

光格天皇が即位してから一貫して、その後ろ盾として、幼い天皇に熱心に教育を施してきた後桜町院は、現在のところ最後の女性天皇として名高く、聡明な院である。光格天皇が安永九年（1780）十二月四日に十歳で即位し、年が明けて、正月十八日に、仙洞で後桜町院が主催して行われた和歌御会始で、後桜町院は以下のような和歌を詠出している。

寄民祝国

民やすきこの日の本の国のかぜなをたゞしかれ御代のはつ春

（国立国会図書館『仙洞和歌御会 安永十年為天明年』第五十三～五十四冊〈124-202〉）

弟である桃園天皇が早世し、中継ぎの天皇として即位した後桜町天皇は、甥である後桃園天皇にバトンを渡したものの不慮の病で崩御。不安定な時代に、閑院宮家から急ぎよ即位したのが、まだ十歳の幼き光格天皇であった。光格天皇が即位して初めて宮中で迎える春に、歴代の天皇の御代がそうだったように、日本の国の民衆が安らかに生活できる正しい国風が若き光格天皇の御代にもなお続きますように、という幼い天皇と国の行く末との安泰と正当さを強く願う、祈りにも似た思いがこの歌にはこめられている。

即位してからの歌道教育、特に天明期の教育は重要なものだった。光格天皇への歌道教育がスタートするのは、即位して二か月後の天明年一月十日である。仙洞の『日次案 天明年』（東京大学史料編纂所蔵京都東山御文庫記録甲第二二六巻）の

一月十日の条に「主上（光格）御詠草拝見始の事」とあり、光格天皇への和歌教育は、即位後すぐにはじめられたことが知られる。本稿のデータを見ていただければわかる通り、即位して二年目の春には内裏和歌御会を主催し、宮中での公の御会を年に二十七回も行っている。私的な御内会を含めれば、開催された歌会の回数はずっと多いと思われる。天皇にとって、和歌を詠むことが、かなりな重大事であったことが知られよう。

佐藤雄介氏は「近世後期の朝廷財政と江戸幕府—寛政～文化期を中心に」（『近世の天皇・朝廷研究大会成果報告集』1、2008年3月）で、寛政期に光格天皇が、宮廷の財政が逼迫するほどの和歌御会を催していたことを報告しているが、光格天皇にとって、宮廷歌会を催すことには財政が逼迫しても行うべき大きな意義があったのだと推測される。光格天皇にとって、和歌御会を催すことには、どのような意義があったのか。生涯熱心に和歌を詠み続けた光格天皇であるが、和歌を詠むことにはどのような意味があったのか。天皇と和歌の関係を繙くそれらの謎は、まだ解き明かされないままである。しかし、その第一歩として、まずは、光格天皇が催した宮廷御会の年表を提示したい。歌人としての光格天皇の歌風の変遷がわかるように、各御会ごとの「題」と「光格天皇の詠草」を翻刻した。また、内裏での宮廷歌会の運営状況が一覧できるように御会の「年月日」「開催場所」「御会名」「歌題」「諸役」（読師、講師、発声、題者、奉行など）も掲載し、出典と参考文献を挙げた。

注

- (1) 藤田覚『幕末の天皇』（講談社選書メチエ、1994年、のちに講談社学術文庫、2013年）、同『近世政治史と天皇』（吉川弘文館、1999年）、同『江戸時代の天皇』（講談社、2011年）など。
- (2) 盛田帝子『近世雅文壇の研究』（汲古書院、2013年）
- (3) 鈴木健一『天皇と和歌 国見と儀礼の一五〇〇年』（講談社、2017年）によれば、仰ぎみる存在であった江戸時代初期の後水尾天皇の「ゆたかなる世の春は来ぬ花ならで大内山に何を待たまし」（『後水尾院御集』二一番）を意識して詠んだ一首であるという。

凡例

- 一 国立国会図書館所蔵『内院和歌御会』（請求記号：853-177）第三十五冊～四十冊の六冊（天明二年～七年、うち第三十七冊〈天明四年〉には内裏御会の記録なし）と、同じく国立国会図書館所蔵『内裏和歌御会』（請求記号：124-202）第五冊～第七冊の三冊（天明六年～天明八年）を底本とし、拠った底本と参考にした本を表記に加えた。これらの本を底本に用いた理由は、光格天皇の宮廷歌会の一員、もしくはその周辺人物でなくては知りえない情報が注記されていることによる。

- 一 御会名、歌題、諸役名、光格天皇の和歌翻刻は、全て原文通りとした。ただし、光格天皇の和歌については、読みやすさを考えて、濁点を付した。
- 一 底本の注記、および光格天皇の伝記的事項は太字で示した。
- 一 内裏で行われた御会に、仙洞から後桜町院、また太后宮や女官が出詠している場合には、備考にその旨を記した。
- 一 その他、特記すべき事項は備考に記した。

本研究はJSPS 科研費 JP12345678の助成を受けたものです。

光格天皇主催御会和歌資料 — 天明朝編										
年月日	年齢	御会名	場所	歌題	光格天皇出詠和歌	題者	奉行	その他の諸役	出典	備考
明和8年 8月15日	1				父閑院宮典仁親王、母善宮。実母は家女房					
安永1年 9月16日	2	聖護院宮忠誉法親王を 継ぐべく付弟となる								
安永8年 11月8日	9	10月29日に急逝した後 桃園天皇の養子となり 参内								
安永8年 11月25日	9	踐祚。諱は兼仁								
安永9年 12月4日	10	即位								
天明1年 1月1日	11	元服								
天明1年 1月10日	11	「主上（光格）御詠草 拝見始の事」行われる								
天明1年 5月7日	11	「御読書始」行われる								
天明2年 1月24日	12	和歌御会始	内裏	貴賤迎春	へだてなくたかきいやしき初春にむかふこゝろは のどけかるらし	為章	為章	読師：徳大寺大納言 講師：雅威朝臣 発声：綾小路三位	国立国会図書館「内院 和歌御会 天明二年」 第35冊（853-177）	後桜町院、 太后宮、 女官達、出詠
天明2年 1月28日	12	御当座	内裏	組題30首（1～ 2字題）光格： 子曰	春がすみたなびく今朝のどかなる野辺に小松を たれもひくらむ	冷泉前中納 言	光祖	講師：俊親	国立国会図書館「内院 和歌御会 天明二年」 第35冊（853-177）	後桜町院出詠
天明2年 2月7日	12	御当座	内裏	組題20首（2～ 3字題）光格： 残菊霜	今朝みれば霜をきそひて冬がれの庭のまがきに残 るしら菊	為章	為泰		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明二年」 第35冊（853-177）	
天明2年 2月23日	12	水瀨宮御法楽	内裏	組題20首（3字 題）光格：春曙 雲	のどかにもなみをはなるよこ雲のかすめてしら む春の明ぼの	冷泉前中納 言	雅威	講師：隆彰朝臣	国立国会図書館「内院 和歌御会 天明二年」 第35冊（853-177）	
天明2年 2月24日	12	月次御会	内裏	組題100首（2 ～3字題）光 格：立春、里雪	立春：いつしかとみぎはのこほりとけそめて春し る池のこゝろなるらし、里雪：山もとの里のよそ めのさむけくも賤がかきねにつもるしら雪	雅威朝臣	為泰		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明二年」 第35冊（853-177）	
天明2年 2月25日	12	聖廟御法楽	内裏	組題50首（1～ 3字題）光格： 名所浦	名所浦：志賀のうらやこだかき松に吹わたる風も のどかに霞たなびく	右衛門督	光祖	講師：頼熙朝臣	国立国会図書館「内院 和歌御会 天明二年」 第35冊（853-177）	
天明2年 3月28日	12	月次御会	内裏	組題2首（苗 代、忍恋）	苗代：なはしろにたねをひたして賤の男がしめ引 まつる小田のどけさ、忍恋：しのぶおもひつゝ むも袖にながれゆく涙の河の人にしられむ	右衛門督	為敦		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明二年」 第35冊（853-177）	

天明2年 4月28日	12	月次御会	内裏	組題100首(2~4字題)光格:廬橋薫風、瞿麦露	廬橋薫風:こすのうちのたもとにながくうつなり軒のたちばな風にかほりて、瞿麦露:こ>のへの庭のまがきのとこ夏にたまとまがへる露のす>しざ	冷泉前中納言	為章		国立国会図書館「内院和歌御会 天明二年」第35冊 (853-177)	
天明2年 5月13日	12	当座御会	内裏	組題30首(1~2字題)光格:萩	あさなゆふなながむる庭に秋の来しおぎの上風ふかぬまぞなき	雅威	雅威		国立国会図書館「内院和歌御会 天明二年」第35冊 (853-177)	
天明2年 5月18日	12	月次御会	内裏	組題2首(連夜聞郭公、行路見恋)	連夜聞郭公:なをいく夜なくともあかしほと>ぎす五月の空になぎつくすこゑ、行路見恋:あやしくもこ>ろにふかくか>るかな道行ぶりに見せしおもかけ	右衛門督	公明		国立国会図書館「内院和歌御会 天明二年」第35冊 (853-177)	
天明2年 5月24日	12	御当座	内裏	組題20首(3~4字題)光格:夏眺望	たちいで>野へをはるかにみわたせばしげるみどりのつ>く夏くさ	冷泉前中納言	資矩		国立国会図書館「内院和歌御会 天明二年」第35冊 (853-177)	
天明2年 5月24日	12	月次御会	内裏	組題2首(五月雨、名所山)	五月雨:山河の水音まして五月雨のはる>間もななくふくらすなり、名所山:たつた山しげる青葉にかねてより秋の色こそおもひやられる	雅威	雅威		国立国会図書館「内院和歌御会 天明二年」第35冊 (853-177)	
天明2年 6月15日	12	当座御会	内裏	組題30首(3字題)光格:夏天象	夏天象:ゆふだちの雲ものこらずはれて今みどりの空の□□(虫損:「ま>」カ)ぞ涼しき	冷泉前中納言	為章		国立国会図書館「内院和歌御会 天明二年」第35冊 (853-177)	
天明2年 6月24日	12	月次御会	内裏	組題100首(1~4字題)光格:霞、怨恋、山家	光格御製部分は白紙(記録ナシ)	為章	為泰		国立国会図書館「内院和歌御会 天明二年」第35冊 (853-177)	
天明2年 6月25日	12	聖廟御法楽	内裏	組題50首(2~3字題)光格:春月	春月:咲にほふはなの木のまにほのかなるひかりのどけき春の夜の月	雅威朝臣	資矩	講師:文房	国立国会図書館「内院和歌御会 天明二年」第35冊 (853-177)	
天明2年 7月7日	12	七夕御会	内裏	七夕草花	初あぎのけふまちてさくな>草はふたつのほしの手向なるらし	雅威朝臣	光祖		国立国会図書館「内院和歌御会 天明二年」第35冊 (853-177)	後醍醐院、太 后宮、女官達、 出詠
天明2年 7月22日	12	御当座	内裏	組題30首(2字題)光格:惜月	月かげの山のはちかく成ぬればなごりぞおもふあかつきのそら	雅威朝臣	資矩		国立国会図書館「内院和歌御会 天明二年」第35冊 (853-177)	
天明2年 7月24日	12	月次御会	内裏	組題2首(槿花、別恋)	槿花:秋ざりのへだつかきねに咲出てわづかにみゆる朝がほのはな、別恋:つれなしやわかれもよほす鳥がねのこよひばかりはしばしまたなん	雅威朝臣	資矩		国立国会図書館「内院和歌御会 天明二年」第35冊 (853-177)	
天明2年 8月24日	12	月次御会	内裏	組題100首(2~3字題)光格:見月、寄草恋	見月:山のはをさし出るよりさやけさにあかてながむる夜半の月かげ、寄草恋:秋の来てみぎりのす>きほにいつるおもひをさぞとみてもしれかし	右衛門督	光祖		国立国会図書館「内院和歌御会 天明二年」第35冊 (853-177)	
天明2年 8月25日	12	聖廟御法楽	内裏	組題20首(2字題)光格:躑躅	躑躅:たく火かとみどりの松の下つ>し春くれなゐの色千しほは	冷泉前中納言	雅威	講師:隆彰朝臣	国立国会図書館「内院和歌御会 天明二年」第35冊 (853-177)	

天明2年 9月19日	12	御当座	内裏	白菊載露	あかぢ見む庭に咲出てをく露もほひをそふるし らぎくの花	雅威朝臣	光祖		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明二年」 第35冊 (853-177)	
天明2年 9月24日	12	御月次	内裏	組題2首(掃 衣、河舟)	構衣：賤の女が秋の夜寒のころもうつきぬたの音 に夢ぞさめける、河舟：よど河や末はるばると朝 なゆふなさほさしつれてうかぶ友ふね	雅威朝臣	資矩		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明二年」 第35冊 (853-177)	
天明2年 10月8日	12	当座御会	内裏	組題20首(2~ 3字題)光格： 寄衣恋	今ははやちぎりかはかで恋衣うらみの数のかさなる ぞうき	右衛門督	雅威		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明二年」 第35冊 (853-177)	
天明2年 10月20日	12	当座御会	内裏	組題30首(1~ 2字題)光格： 若菜	さえ残る雪のひまひまもえ出て色ものどけきわか なをぞつむ	冷泉前中納 言	為敦		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明二年」 第35冊 (853-177)	
天明2年 10月24日	12	御月次	内裏	組題100首(1 ~3字題)光 格：河款冬、紅 葉深	河款冬：やま吹の咲みてる井手の玉河やこがねの 色に露もむすびて、紅葉深：立山山春のはなにも まさりけり秋のもみちの色の千しほは	雅威朝臣	光祖		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明二年」 第35冊 (853-177)	
天明2年 11月24日	12	月次御会	内裏	組題2首(松 雪、恨)	松雪：ふかみどり今朝はむもれて□に雪ふりつる 庭の松がえ、恨：あまごろもつらみたえせず明 くれに猶しほたる>須磨のうらなみ	為章	為章		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明二年」 第35冊 (853-177)	
天明2年 12月24日	12	月次御会	内裏	組題100首(1 ~4字題)光 格：鶯、雪	鶯：いとはやも谷より出て庭のおものこずゑにき なく鶯のこゑ、雪：みよし野の山の下風さゑさゑ てけさ白たへのゆきのふるさと	冷泉前中納 言	為敦		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明二年」 第35冊 (853-177)	
天明3年 1月24日	13	和歌御会始	内裏	梅有佳色	あめがしたたみゆたかなる世の春を咲にほふ梅の いろに見すらし	新侍従三位	光祖	読師：正親町大納言 講師：隆彰朝臣 発声：持明院三位	国立国会図書館「内院 和歌御会 天明三年」 第36冊 (853-177)	後桜町院、太 后宮、女官達、 出詠
天明3年 1月28日	13	御当座	内裏	組題30首(2~ 3字題)光格： 霞知春	あさみどりかすみのころも立そめて春をやみする をちの山のは	右衛門督	資矩	講師：文房	国立国会図書館「内院 和歌御会 天明三年」 第36冊 (853-177)	後桜町院出詠
天明3年 2月14日	13	当座御会	内裏	組題20首(2字 題)光格：折恋	幾とせかいつれとも猶貴船河などかあふ瀬のなみの しらゆふ	為章	為泰		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明三年」 第36冊 (853-177)	
天明3年 2月22日	13	水瀨宮御法楽	内裏	組題20首(2字 題)光格：柳露	春の日の風長閑にてみどりそふ柳のいとかにかる しつゆ	新侍従三位	為敦		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明三年」 第36冊 (853-177)	
天明3年 2月24日	13	月次御会	内裏	組題100首(1 ~4字題)光 格：立春、増恋	立春：山端にまたき霞のたな引て今朝のどかにも 春は立けり、増恋：此ごろは日毎にいと>恋しさ のますみのか>みみるもはづかし	右衛門督	資矩		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明三年」 第36冊 (853-177)	
天明3年 2月25日	13	聖廟御法楽	内裏	組題50首(1~ 3字題)光格： 藤	松がゑにうらむらさぎの色深く咲もえならぬ池の 藤なみ	冷泉前中納 言	雅威	講師：俊視	国立国会図書館「内院 和歌御会 天明三年」 第36冊 (853-177)	
天明3年 3月24日	13	月次御会	内裏	組題2首(躑 躑：寄草恋)	躑躑：春の庭にもみちとみえてくれなるの色の千し ほにつ>じ咲なり、寄草恋：幾とせかいはて忍 ぶの草の露したにみだれておもふくるしさ	冷泉前中納 言	為章		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明三年」 第36冊 (853-177)	

天明3年 4月24日	13	月次御会	内裏	組題100首(2字題)光格:卯花、寒鷹	卯花:しづがやのかきねつゝきにしら雪のふるかとみえてさける卯のはな、寒鷹:冬きては霜がれにける江のあしのなみもあらはにみゆる寒けさ	新侍従三位	為章		国立国会図書館「内院和歌御会 天明三年」第36冊(853-177)	
天明3年 4月30日	13	当座御会	内裏	組題30首(2字題)光格:夏望	うちむかふなつの山は草も木もひとつみどりにしげる涼しさ	新侍従三位	光祖		国立国会図書館「内院和歌御会 天明三年」第36冊(853-177)	
天明3年 5月20日	13	当座御会	内裏	組題20首(3~4字題)光格:水鶏何方	夜をふかみいつことわかず楨の戸をたゝく水鶏の声ぞひまなき	民部卿	雅威		国立国会図書館「内院和歌御会 天明三年」第36冊(853-177)	
天明3年 5月24日	13	月次御会	内裏	組題2首(菖蒲、旅泊浪)	菖蒲:池のおもにみどりしけれのあやめ草五月の雨ににほひそふなり、旅泊浪:しほかぜもはげしく吹てみなと船なみのうきねのゆめもむすばず	右衛門督	雅威		国立国会図書館「内院和歌御会 天明三年」第36冊(853-177)	
天明3年 6月24日	13	御月次	内裏	組題:100首(2~3字題)光格:折花、浦松	折花:庭のおもに色香ふかくも咲はなを見てのみあかず手折ひと枝、浦松:ことの葉のみちをためしに深みどり猶さかへ行わかのうらまつ	民部卿	資矩		国立国会図書館「内院和歌御会 天明三年」第36冊(853-177)	
天明3年 6月25日	13	聖廟御法楽	内裏	組題50首(3字題)光格:見卯花	時しらぬ雪かともえて賤がやのかきねつゝきに咲るうの花	為章	為章		国立国会図書館「内院和歌御会 天明三年」第36冊(853-177)	
天明3年 6月28日	13	当座御会	内裏	組題30首(2字題)(光格:折恋)	後日被改 /幾とせかたのみかけても貴船河などがあふ瀬のなみのしらゆふ 神やしる松のしめなはかけて祈るなにかひなき人のつらさを(朱書き)	為章	為章		国立国会図書館「内院和歌御会 天明三年」第36冊(853-177)	
天明3年 7月7日	13	七夕御会	内裏	二星歎会秋	秋毎にあまの河なみ千世かけてこれつきほしの逢瀬成らし	民部卿	為章		国立国会図書館「内院和歌御会 天明三年」第36冊(853-177)	後桜町院、太 后宮、女官達、 出詠
天明3年 7月22日	13	当座御会	内裏	組題20首(2~3字題)光格:荻風	秋きぬと桐のひとはにさきだちてをぎのうは風音ぞ身にしむ	新侍従三位	資矩		国立国会図書館「内院和歌御会 天明三年」第36冊(853-177)。	
天明3年 7月24日	13	月次御会	内裏	組題2首(尋虫、契恋)	尋虫:そことなく野べにきこゆる松むしの声をたづねてよはそ更ゆく、契恋:まつかひもあかでこよひはつらからぬちぎりをたのむなかのゆく末	新侍従三位	為敦		国立国会図書館「内院和歌御会 天明三年」第36冊(853-177)	
天明3年 8月24日	13	御月次	内裏	組題100首(1~3字題)光格:蘭、近恋	蘭:野辺とをくたがぬきかけし藤ほかまうす紫の色もなつかし、近恋:□(虫損)をそへてつるはうし中かきのたゝひとへにてまかけなしも	新侍従三位	為章		国立国会図書館「内院和歌御会 天明三年」第36冊(853-177)	
天明3年 8月26日	13	御当座	内裏	組題30首(2~3字題)光格:名所濱	はるる夜のなみもしづけき秋かぜに月さやかなるすみよしのはま	民部卿	為敦		国立国会図書館「内院和歌御会 天明三年」第36冊(853-177)	後桜町院出詠
天明3年 9月13日	13	詩歌御当座	内裏	組題30首(3字題)光格:十三夜	日の本に後の名をえし今夜とやさやかにてらすな か月のかけ	右衛門督	光祖		国立国会図書館「内院和歌御会 天明三年」第36冊(853-177)	
天明3年 9月28日	13	月次御会	内裏	組題2首(紅葉深、田家)	紅葉深:このごろはしぐれひまなくみゆる山千しほももしほそむるもみちば、田家:秋の田のいな葉色づく遠近に賤がかり庵のみゆるさびしさ	右衛門督	光祖		国立国会図書館「内院和歌御会 天明三年」第36冊(853-177)	

天明3年 10月～12月	13	10月12日、盛化門院 (後桃園天皇配偶)崩御。以後、内裏・仙洞御会なし。								
天明4年	14	昨年に引き続き、内裏・仙洞御会なし。ただし仙洞の御会については『院中和歌御会 天明四年』(国会図書館 853-177-37)には、「去年十月前盛化門院御事以来 内院和御会無之処従当月院中月次和歌御会有之事」とあって、二月十八日から月次御会、御当座等が開始されている。また、同書によれば「同(十)月十六日諒闇終大祓之事」とあり、盛化門院の諒闇が終了したことが知られる。但し、国立国会図書館『院中和歌御会 天明四年』第37冊(853-177)には内裏御会の記録がなく、天明四年は内裏の宮廷歌会は開催されなかったと思われる。光格天皇は仙洞御会にも出詠していない。							国立国会図書館『院中和歌御会 天明四年』第37冊(853-177)	
天明5年 1月24日	15	和歌御会始	内裏	迎春祝言	千世かけてつきせぬ万づの言の葉のいやさかふべき春はぎにけり	民部卿	資矩	読師：中山大納言 講師：頼熙朝臣 発声：持明院前宰相	国立国会図書館『内院和歌御会 天明五年』第38冊(853-177)	後桜町院、女官達、出詠
天明5年 1月26日	15	御当座	内裏	組題30首(2～3字題)光格：早春風	のとけしな庭の木のめを今朝よりはいそげとやふく春のはつ風	民部卿	光祖	講師：頼熙朝臣	国立国会図書館『内院和歌御会 天明五年』第38冊(853-177)	後桜町院出詠
天明5年 2月22日	15	水瀨宮御法楽	内裏	組題20首(2～3字題)光格：河辺霞	水無瀬河はるのみどりにほのほのと波ものどにかかすみたつなり	右衛門督	光祖	講師：昶定	国立国会図書館『内院和歌御会 天明五年』第38冊(853-177)	
天明5年 2月24日	15	御月次	内裏	組題100首(2～3字題)光格：立春、朝霧	立春：なべて世の人のころもへだてなくけさたつ春をむかふのとけさ、朝霧：あさづく日いつる光もほのほのとたかねをふかくこむる秋ざり	民部卿	為敦		国立国会図書館『内院和歌御会 天明五年』第38冊(853-177)	

天明5年 2月25日	15	聖廟御法楽	内裏	組題50首(2~3字題)光格: 初春松	今朝よりは春來にけりとまつかすむ北野のもりの松のひとしほ	雅威	雅威	講師:良顕	国立国会図書館「内院和歌御会 天明五年」第38冊(853-177)	
天明5年 2月28日	15	当座御会	内裏	組題20首(1~2字題)光格: 雪	冬かれし木々のこずゑにはなもまた咲かみえてつもるしらゆき	為章	為泰		国立国会図書館「内院和歌御会 天明五年」第38冊(853-177)	
天明5年 3月11日	15	当座御会	内裏	組題30首(2字題)光格:残暑	なつになれしあふぎををかぬ此ごろのこのるあつさは秋としもなき	新侍従三位	資矩		国立国会図書館「内院和歌御会 天明五年」第38冊(853-177)	
天明5年 3月24日	15	月次御会	内裏	野雲雀、董菜、 契逢恋	野雲雀:春がすみたなびく野辺に見えわかであか ずひばりの声ぞひまなき、董菜:むらさぎの色を みぎりのつぼすみれつむ袖までも露にうつりて、 契逢恋:ちぎりをさし言葉たがはでこよひかくあ ふうれしさはいつかわすれん	為章	為章		国立国会図書館「内院和歌御会 天明五年」第38冊(853-177)	
天明5年 3月30日	15	当座御会	内裏	組題20首(4字題)光格:霜埋 苔経	雪かとも見まがふばかりこけのうへをうづむ山路 のけさのあさしも	民部卿	為章		国立国会図書館「内院和歌御会 天明五年」第38冊(853-177)	
天明5年 4月24日	15	月次御会	内裏	組題100首(1~3字題)光格: 葵、残菊	葵:二葉なるその神山のあふひ草みどりの色は千 世もかはらし、残菊:見し秋のさかりは過てをく 霜にむらさぎにほふませのむらざく	新侍従三位	為泰		国立国会図書館「内院和歌御会 天明五年」第38冊(853-177)	
天明5年 4月26日	15	当座御会	内裏	組題30首(3字題)光格:梅雨 久	けふ幾日雲とちそひて降まゝにかぎりも見えぬさ みだれの空	右衛門亮	為敦		国立国会図書館「内院和歌御会 天明五年」第38冊(853-177)	
天明5年 5月13日	15	当座御会	内裏	組題30首(3字題)光格:郭公 遍	此ごろは声をおしまでたが里もをちかへりなく山 ほとゝぎす	雅威	雅威		国立国会図書館「内院和歌御会 天明五年」第38冊(853-177)	
天明5年 5月22日	15	当座御会	内裏	組題30首(2字題)光格:夏夜	すゝしやとながむる月もみじか夜のほどはしられ て明がたのそら	民部卿	光祖		国立国会図書館「内院和歌御会 天明五年」第38冊(853-177)	
天明5年 5月24日	15	月次御会	内裏	郭公声繁、河五 月雨、旅宿松風	郭公声繁:一こゑをまちつらさもわずられてを ちかへりなくやまほとゝぎす、河五月雨:大井河 さつきの雨に水かさぞひがしの山は雲そかさな る、旅宿松風:たび枕みやこにかへる夢さめてき けば物うきみねのまつかぜ	民部卿	為敦		国立国会図書館「内院和歌御会 天明五年」第38冊(853-177)	
天明5年 6月13日	15	当座御会	内裏	組題20首(1字題)光格:橋	百敷やのきのたちばな咲しよむかしかはらぬ香 にはほふらし	為章	為章		国立国会図書館「内院和歌御会 天明五年」第38冊(853-177)	
天明5年 6月24日	15	月次御会	内裏	組題20首(1~3字題)光格: 花、雪	花:八重にたつ雲かと見えて此ごろは花のさかり のみよし野の山、雪:庭のおもの木々□にふりつ みてあかぬながめの雪の朝戸出	右衛門督	雅威		国立国会図書館「内院和歌御会 天明五年」第38冊(853-177)	
天明5年 7月7日	15	天明五年七夕 和歌御会	内裏	星河秋久	天のがはもみちのはしも月のふねも幾世の秋のち ぎりなるらし	新侍従三位	為敦		国立国会図書館「内院和歌御会 天明五年」第38冊(853-177)	後桜町院、女 官達、出詠

天明5年 7月8日	15	当座御会	内裏	組題20首(2~4字題)光格: 七夕後朝	たなはたの天の河なみこぎかへる今朝の名残にそ でやぬるらむ	民部卿	光祖		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明五年」 第38冊 (853-177)	
天明5年7 月24日	15	月次御会	内裏	草花、野露、恋 船	草花:しめゆひし庭のまがきの萩のはなまつ咲そ むる色はめづらし、野露:真葛葉を吹かへす野へ のゆふ風にみだれてぞちる露の白玉、恋船:うな ばらや末はるばるとゆく船のよるべもなみになを こがれぬる	新侍従三位	光祖		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明五年」 第38冊 (853-177)	
天明5年7 月26日	15	当座御会	内裏	組題30首(2字 題)光格:菊霜	色々のはなのむらぎく今朝みればをくはつ霜にい とゝはへある	右衛門督	為敦		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明五年」 第38冊 (853-177)	
天明5年8 月11日	15	当座御会	内裏	組題20首(1字 題)光格:鶯	柳かけ清水ながるゝみぎはをやしめてしづかにね ぶるしら鶯	右衛門督	雅威		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明五年」 第38冊 (853-177)	
天明5年 8月24日	15	月次御会	内裏	組題100首(2 字題)光格:氷 室、待恋	氷室:あつき日の影をへだてゝ氷室山なつをよそ なるまつの下かせ、待恋:かねてより此ゆふくれ たとのめつゝまつにとひこぬ人のつれなさ	為章	為章		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明五年」 第38冊 (853-177)	
天明5年 8月25日	15	御当座	内裏	組題30首(2~ 3字題)光格: 秋夕風	ませのうちの真萩がはなに色そふる露なはらひそ 秋の夕かせ	新侍従三位	光祖		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明五年」 第38冊 (853-177)	
天明5年 9月24日	15	月次御会	内裏	在明月、紅葉 色々、塩屋煙	光格御製部分は白紙(記録ナシ)	新侍従三位	資矩		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明五年」 第38冊 (853-177)	
天明5年 10月24日	15	月次御会	内裏	組題100首(1 字題)光格:桃、 蒨、蔦	「桃」と「蔦」に関しては、光格御製部分は白紙 (記録ナシ)。蒨:これもまた八重にひとへに花ぞ さくさくらはちりし庭のやまぶき	為泰	為泰		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明五年」 第38冊 (853-177)	
天明5年 11月24日	15	月次御会	内裏	雪散風、水鳥、 寄枕恋	光格御製部分は白紙(記録ナシ)	右衛門督	雅威		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明五年」 第38冊 (853-177)	
天明5年 12月8日	15	当座御会	内裏	組題30首(1~ 3字題)光格: 思	うき中はあふ瀬もしらすおもひ河つもるおもひの ふちとなりぬる	民部卿	資矩		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明五年」 第38冊 (853-177)	
天明5年 12月24日	15	月次御会	内裏	組題100首(2 ~3字題)光 格:虫声滋、山 家雲、述懐	虫声滋:もゝくさの露にきをひて鳴むしのこゑぞ ひまなきのへの夕ぐれ、山家雲:人とはですむ山 陰のしほの戸にあけくれたゝすかゝるしらくも、 述懐:ふしておもひおきてあふくもすなほなる こゝろをたねのやまとことのは	新侍従三位	光祖		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明五年」 第38冊 (853-177)	
天明6年 1月24日	16	和歌御会始	内裏	霞添山気色	のどけしなあさなあさなにたちそふる霞の色もに ほふ山まゆ	冷泉右衛門 督為章卿	冷泉民部卿 為泰卿	読師:油小路前大納言 隆前卿、講師:俊親朝 臣坊城頭弁、発声:綾 小路三位俊資卿	国会図書館「内裏和歌 御会 天明六年」 (124-202)。参考:国 立国会図書館「内院和 歌御会 天明六年」第 39冊 (853-177)	後桜町院出詠

天明6年 1月28日	16	当座御会	内裏	組題30首(3字題)光格:都初春	あさまだきよもの高ねの長閑にもみやこの空のかすむはつ春	冷泉民部卿 為泰卿	日野中納言 光祖卿	講師: 稔定 清閑寺弁	国会図書館「内裏和歌御会 天明六年」(124-202)。参考:国立国会図書館「内院和歌御会 天明六年」第39冊(853-177)	後桜町院出詠
天明6年 2月13日	16	和歌御会 將軍家五十賀	内裏	寄鶴祝言	五十よりかぞへそへつゝなれてすむつるの齡に契れとぞ思ふ	冷泉民部卿 為泰卿	日野中納言 光祖卿		国会図書館「内裏和歌御会 天明六年」(124-202)。参考:国立国会図書館「内院和歌御会 天明六年」第39冊(853-177)	
天明6年 2月22日	16	水無瀬宮御法楽	内裏	組題20首(3字題)光格:早春河	春きぬとけさはのどかに水無瀬河ゆくせの浪もかすみそめぬる	冷泉民部卿 為泰卿	冷泉右衛門 督 為章卿	講師: 勤修寺弁良頭	国会図書館「内裏和歌御会 天明六年」(124-202)。参考:国立国会図書館「内院和歌御会 天明六年」第39冊(853-177)	
天明6年 2月24日	16	月次御会	内裏	組題100首(2~3字題)光格:立春天、野葦菜	立春天:天つ空くもの通路吹風もけさたつ春に新玉りぬる、野葦菜:濃紫さき匂ひけりすみれ草うすみどりなる野への芝生に	冷泉右衛門 督 為章卿	日野新中納言 資矩卿		国会図書館「内裏和歌御会 天明六年」(124-202)。参考:国立国会図書館「内院和歌御会 天明六年」第39冊(853-177)	
天明6年 2月25日	16	聖廟御法楽	内裏	組題50首(2~3字題)光格:若菜	諸人のけふ打むれて春の野にわかなつむなるよそめのどけき	冷泉右衛門 督 為章卿	日野中納言 光祖卿	講師: 稔定 清閑寺弁	国会図書館「内裏和歌御会 天明六年」(124-202)。参考:国立国会図書館「内院和歌御会 天明六年」第39冊(853-177)	
天明6年 2月28日	16	当座御会	内裏	組題20首(2~3字題)光格:苗代	春深き山下水をせき入てしづがたねまく小田の苗代	飛鳥井侍従 三位 雅威卿	冷泉右衛門 督 為章卿		国会図書館「内裏和歌御会 天明六年」(124-202)。参考:国立国会図書館「内院和歌御会 天明六年」第39冊(853-177)	
天明6年 3月28日	16	月次御会	内裏	朝花、夕蛙、夜恋	朝花:たますだれまきあげてみればめかれずも花の色そふけさの朝露、夕蛙:山吹の花も露けきたまくれ池のかはづのすたくこ象こ象、夜恋:たのみをきてまつにとひこぬ人ぞうきこよひもかてひとりあかさ	飛鳥井侍従 三位 雅威卿	日野新中納言 資矩卿		国会図書館「内裏和歌御会 天明六年」(124-202)。参考:国立国会図書館「内院和歌御会 天明六年」第39冊(853-177)	

天明6年 4月28日 (本来24日 に行われる はずが延引)	16	月次御会	内裏	組題100首(2 ~3字題)光格: 瀧下蛩、篠 霜	瀧下蛩:涼しくもみぎりの瀧の白玉にひかりをそ へて蛩とふなり、篠霜:小篠原あさ霜深み葉がへ せぬ色も白妙に見ゆるさむけさ	冷泉民部卿 為泰卿	飛鳥井侍従 三位 雅威 卿		国会図書館「内裏和歌 御会 天明六年」 (124-202)。参考:国 立国会図書館「内院和 歌御会 天明六年」第 39冊(853-177)	『内院和歌御 会 天明六年』に「廿四 日御延引」と あり。
天明6年 4月28日	16	当座御会	内裏	組題30首(2~ 3字題)光格: 挿莢	春の花のあかぬ色香も忘れけりけふ涼しくもかさ す莢に	冷泉民部卿 為泰卿	日野新中納 言 資矩卿		国会図書館「内裏和歌 御会 天明六年」 (124-202)。参考:国 立国会図書館「内院和 歌御会 天明六年」第 39冊(853-177)	
天明6年 5月13日	16	当座御会	内裏	組題20首(3~ 4字題)光格: 雨中郭公	五月雨のはれ間の月を待ことにわすれてぞきく山 ほとゝぎす	冷泉右衛門 督 為章卿	日野新中納 言 資矩卿		国会図書館「内裏和歌 御会 天明六年」 (124-202)。参考:国 立国会図書館「内院和 歌御会 天明六年」第 39冊(853-177)	
天明6年 5月24日	16	月次御会	内裏	さつき、たちば な、ほたる	さつき:五月雨の日をふるまゝにたえず猶軒のい と水音ぞそひ行、たちばな:ほとゝぎすやどりと やせん庭の面にかほるか深くさける立花、ほた る:葎わたる野辺の草むらしら露の玉とまがへて ほたる飛かふ	冷泉民部卿 為泰卿	飛鳥井侍従 三位 雅威 卿		国会図書館「内裏和歌 御会 天明六年」 (124-202)。参考:国 立国会図書館「内院和 歌御会 天明六年」第 39冊(853-177)	
天明6年 6月11日	16	当座御会	内裏	組題30首(3~ 4字題)光格: 欲立名恋	我袖におつるなみだをつゝみかねうき名のよには やがてたちなん	飛鳥井侍従 三位 雅威 卿	日野新中納 言 資矩卿		国会図書館「内裏和歌 御会 天明六年」 (124-202)。参考:国 立国会図書館「内院和 歌御会 天明六年」第 39冊(853-177)	
天明6年 6月24日	16	月次御会	内裏	組題100首(2 字題)光格:夕 顔、初雁	光格御製部分は白紙(記録ナシ)	飛鳥井侍従 三位 雅威 卿	日野新中納 言 資矩卿		国会図書館「内裏和歌 御会 天明六年」 (124-202)。参考:国 立国会図書館「内院和 歌御会 天明六年」第 39冊(853-177)	
天明6年 6月25日	16	聖廟御法楽	内裏	組題50首(1~ 3字題)光格: 梅	所から色もにほひもえならずよきたのゝ社にさける 梅が枝	飛鳥井侍従 三位 雅威 卿	日野新中納 言 資矩卿	講師:胤定 広橋弁	国会図書館「内裏和歌 御会 天明六年」 (124-202)。参考:国 立国会図書館「内院和 歌御会 天明六年」第 39冊(853-177)	

天明6年 6月27日	16	当座御会	内裏	組題20首(2字題) 光格:見恋	玉章をとりもかはさずよそながらみてのみしたふ中のわりなさ	飛鳥井侍従三位 雅威卿	飛鳥井侍従三位 雅威卿		国会図書館「内裏和歌御会 天明六年」(124-202)。参考:国立国会図書館「内院和歌御会 天明六年」第39冊(853-177)	
天明6年 7月7日	16	七夕御会	内裏	織女期秋	神代よりながれてたえぬ天河あきのこよひのほしの逢瀬は	飛鳥井侍従三位 雅威卿	日野新中納言 資矩卿		国会図書館「内裏和歌御会 天明六年」(124-202)。参考:国立国会図書館「内院和歌御会 天明六年」第39冊(853-177)	女官達出詠
天明6年 7月24日	16	月次御会	内裏	稲妻、山鹿、待恋	稲妻:秋の野>草葉の露の見ゆるまでたえずか<やくいなつまのかけ、山鹿:萩が花あらぬ外山のさをしかはさぞうき妻をこひつ>やなく、待恋:かならずとたのめをきにしことのはのいつはりしらで待ぞつれなき	飛鳥井侍従三位 雅威卿	日野新中納言 資矩卿		国会図書館「内裏和歌御会 天明六年」(124-202)。参考:国立国会図書館「内院和歌御会 天明六年」第39冊(853-177)	
天明6年 8月3日	16	当座御会	内裏	組題20首(2~3字題) 光格:初雁	越路より幾重の峰をこえきてかけさめづらしく渡る初かり	為章	為章		国立国会図書館「内院和歌御会 天明六年」第39冊(853-177)	
天明6年 8月24日	16	月次御会	内裏	組題100首(2~4字題) 光格:子日松、雪中鶯、山朝霧	子日松:野辺に出てけふ引松の二葉にもちとせの色ぞかねて見えける、雪中鶯:春ながら降つむ雪のはなのえにこゑめづらしくきなく鶯、山朝霧:起出てむかふ外山の峰つゝきわかぬ斗にこもるあざざり	冷泉右衛門督 為章卿	日野新中納言 資矩卿		国会図書館「内裏和歌御会 天明六年」(124-202)。参考:国立国会図書館「内院和歌御会 天明六年」第39冊(853-177)	
天明6年 9月24日	16	月次御会	内裏	菊露、鶯、庭鶴	菊露:日にそひて色こそにほふきくの花に置しら露ぞいとゞはへある、鶯:ふかみどりしげれるまつ枝わきてかゝるいろこき鶯のもみち葉、庭鶴:九重のみぎりのまつをちぎりにてすむてふ鶴も千世よそふらし	冷泉右衛門督 為章卿	冷泉右衛門督 為章卿		国会図書館「内裏和歌御会 天明六年」(124-202)。参考:国立国会図書館「内院和歌御会 天明六年」第39冊(853-177)	
天明6年 9月28日	16	当座御会	内裏	組題30首(1~4字題) 光格:野鶯	野辺ひろみ行々見れば梅がえのにほふあたりにうぐひすのなく	冷泉民部卿 為泰	冷泉民部卿 為泰		国会図書館「内裏和歌御会 天明六年」(124-202)。参考:国立国会図書館「内院和歌御会 天明六年」第39冊(853-177)	
天明6年 10月19日	16	当座御会	内裏	組題20首(2字題) 光格:峰霞	一入の春の色とややまとをきみねの松原霞たな引	冷泉右衛門督 為章卿	飛鳥井侍従三位 雅威卿		国会図書館「内裏和歌御会 天明六年」(124-202)。参考:国立国会図書館「内院和歌御会 天明六年」第39冊(853-177)	

天明6年 10月24日	16	月次御会	内裏	組題100首(2字題)光格:曉梅、海霧	曉梅:月残るあかつきふかみ咲梅の色はわかねど 香こそぞひけれ、海霧:夕ま暮海原遠く釣舟のか へる波路をこむる秋霧	冷泉民部卿 為泰卿	飛鳥井侍從 三位 雅威 卿		国会図書館「内裏和歌 御会 天明六年」 (124-202)。参考:国 立国会図書館「内院和 歌御会 天明六年」第 39冊(853-177)	
天明6年 10月27日	16	当座御会	内裏	組題20首(2~ 3字題)光格: 炬火	そもにはあらしはけしき冬の夜の寒さをよそに むかふ埋火	飛鳥井侍從 三位 雅威 卿	冷泉右衛門 督 為章卿		国会図書館「内裏和歌 御会 天明六年」 (124-202)。参考:国 立国会図書館「内院和 歌御会 天明六年」第 39冊(853-177)	
天明6年後 10月24日	16	月次御会	内裏	冬野、冬鳥、冬 恋	光格御製部分は白紙(記録ナシ)	飛鳥井侍從 三位 雅威 卿	冷泉民部卿 為泰卿		国会図書館「内裏和歌 御会 天明六年」 (124-202)。参考:国 立国会図書館「内院和 歌御会 天明六年」第 39冊(853-177)	
天明6年後 10月28日	16	当座御会	内裏	組題30首(2字 題)光格:鷹狩	夕まぐれ狩場をさむみ降雪にそれかとばかりまが ふしら鷹	冷泉民部卿 為泰卿	日野新中納 言 資矩卿		国会図書館「内裏和歌 御会 天明六年」 (124-202)。参考:国 立国会図書館「内院和 歌御会 天明六年」第 39冊(853-177)	冷泉為泰の名 の右に「巻頭 初度」とあり、 為泰の詠 草が宮廷御会 で初めて巻頭 飾ったことが 知られる (['内裏和歌御 会 天明六 年'])
天明6年 11月24日	16	月次御会	内裏	組題100首(2 字題)光格:埋 火、籬竹	埋火:吹風にあられ音する冬の夜のさむさ忘れて むかふうつみ火、籬竹:朝夕に心をならふ友なれ やまがきの竹のすなをなるかけ	冷泉右衛門 督 為章卿	冷泉民部卿 為泰卿		国会図書館「内裏和歌 御会 天明六年」 (124-202)。参考:国 立国会図書館「内院和 歌御会 天明六年」第 39冊(853-177)	
天明6年 11月28日	16	当座御会	内裏	組題20首(2~ 3字題)光格: 梅薫枕	そらだきのうとくなるまで夜な夜なに梅が香ふか き闇の手枕	飛鳥井侍從 三位 雅威 卿	冷泉民部卿 為泰卿		国会図書館「内裏和歌 御会 天明六年」 (124-202)。参考:国 立国会図書館「内院和 歌御会 天明六年」第 39冊(853-177)	

天明6年 12月24日	16	月次御会	内裏	冬 小堀山、冬 片野、雑 清瀧 河	光格御製部分は白紙（記録ナシ）	冷泉民部卿 為泰卿	飛鳥井侍從 三位 雅威 卿		国会図書館「内裏和歌 御会 天明六年」 (124-202)。参考：国 立国会図書館「内院和 歌御会 天明六年」第 39冊（853-177）	
天明7年 1月24日	17	公宴 和歌御会始	内裏	御苑鶯声	物のねにこゑのしらへもあはせつゝあかずさへづ るそのゝうぐひす	民部卿 為 泰卿	右衛門督 為章卿	読師：新大納言 清閑 寺益房卿、講師：俊親 朝臣 坊城頭弁、発 声：源宰相中将 重嗣 卿	国会図書館「内裏和歌 御会 天明七年」 (124-202)。参考：国 立国会図書館「内院和 歌御会 天明七年」第 40冊（853-177）	後桜町院、 女官達出詠
天明7年 1月28日	17	和歌当座御会	内裏	組題30首（1～ 3字題）光格： 立春	起いでゝとなふる星のひかりよりほのほのかすむ はるは来に覺	民部卿 為 泰卿	民部卿 為 泰卿	講師：勤修寺弁 良頭	国会図書館「内裏和歌 御会 天明七年」 (124-202)。参考：国 立国会図書館「内院和 歌御会 天明七年」第 40冊（853-177）	後桜町院出詠
天明7年 2月19日	17	御当座	内裏	組題20首（2～ 3字題）光格： 春囃月	おほろなる月の光の長閑にも横雲かすむ春のあけ ほの	右衛門督	資矩		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明七年」 第40冊（853-177）	
天明7年 2月22日	17	水瀧宮御法楽	内裏	組題20首（2～ 3字題）光格： 早春山	水無瀧山今朝見わたせば長閑にもかすみそめつゝ はるはきにけり	右衛門督 為章卿	日野中納言 資矩卿	講師：広橋弁 胤定	国会図書館「内裏和歌 御会 天明七年」 (124-202)。参考：国 立国会図書館「内院和 歌御会 天明七年」第 40冊（853-177）	
天明7年 2月22日	17	御奉納 後鳥羽院五百 五十回聖忌御法楽	内裏	水郷春囃	みなせ河その山本のかすみにもしのぶむかしの春 のあけほの	為章	為章		国立国会図書館「内院 和歌御会 天明七年」 第40冊（853-177）	
天明7年 2月24日	17	月次御会	内裏	組題100首（3 字題）光格：故 郷梅、野徑鶯	故郷梅：いにしへのふるき都の跡とてや今もなに はに匂ふ梅がゝ、野徑鶯：夕まぐれゆく手さびし く秋の野のおばながもとに鶯なくらし	藤侍從三位 雅威卿	藤侍從三位 雅威卿		国会図書館「内裏和歌 御会 天明七年」 (124-202)。参考：国 立国会図書館「内院和 歌御会 天明七年」第 40冊（853-177）	
天明7年 2月25日	17	聖廟御法楽	内裏	組題50首（1～ 3字題）光格： 早春	玉すだれまきあげてみれば春きぬとあさげの山に かすみ棚引	冷泉民部卿 為泰卿	冷泉民部卿 為泰卿	講師：俊親朝臣	国会図書館「内裏和歌 御会 天明七年」 (124-202)。参考：国 立国会図書館「内院和 歌御会 天明七年」第 40冊（853-177）	

天明7年 3月14日	17	和歌当座御会	内裏	組題30首(1~4字題)光格: 若菜	かすむ野に立出てみれば諸人の袖ふりはへて若菜つむなり	藤侍従三位 雅威卿	冷泉民部卿 為泰卿		国会図書館「内裏和歌御会天明七年」(124-202)。参考:国立国会図書館「内院和歌御会天明七年」第40冊(853-177)	
天明7年 3月24日	17	御月次	内裏	野遊、藤、折恋	野遊:すみれつみ花をかざしてのどかなるはの野もせにあかずくらしつ、藤:むらさぎのいろ浅からず松が枝にさきかゝりたるはなの藤波、折恋:貴ふねがは幾としつきをいのりてもうしやあふせは波のしらゆふ	冷泉右衛門 督 為章卿	日野中納言 資矩卿		国会図書館「内裏和歌御会天明七年」(124-202)。参考:国立国会図書館「内院和歌御会天明七年」第40冊(853-177)	
天明7年 4月14日	17	和歌当座御会	内裏	組題20首(1~2字題)光格: 松	深みどり波にひたして田子の浦のみるめにつくく三保の松原	冷泉右衛門 督 為章卿	冷泉右衛門 督 為章卿		国会図書館「内裏和歌御会天明七年」(124-202)。参考:国立国会図書館「内院和歌御会天明七年」第40冊(853-177)	「内院和歌御会天明七年」では日付が四月十三日
天明7年 4月22日	17	水瀨宮御法楽	内裏	組題20首(2~3字題)光格: 新樹	立ならぶ木々のみどりのうすくこくわが葉生そふ色のすゝしさ	冷泉右衛門 督 為章卿	冷泉民部卿 為泰卿	講師:俊親朝臣	国立国会図書館「内院和歌御会天明七年」第40冊(853-177)	
天明7年 4月28日	17	月次御会	内裏	組題100首(3字題)光格:夏 草滋、江辺鷺	光格御製部分は白紙(記録ナシ)	冷泉民部卿 為泰卿	冷泉民部卿 為泰卿		国会図書館「内裏和歌御会天明七年」(124-202)。参考:国立国会図書館「内院和歌御会天明七年」第40冊(853-177)	
天明7年 5月8日	17	和歌当座御会	内裏	組題30首(ほと とぎす、とこな つ、はなたちは な、おもかけ に、こひわび て、うちもねず の6題)光格: こひわひて	こひわひて:今宵しもまだ問ねばいとゝなをこひわひてうきひとりねのとこ	冷泉民部卿 為泰卿	冷泉右衛門 督 為章卿		国会図書館「内裏和歌御会天明七年」(124-202)。参考:国立国会図書館「内院和歌御会天明七年」第40冊(853-177)	
天明7年 5月24日	17	月次御会	内裏	水鶏、夏草、瀧 音	光格御製部分は白紙(記録ナシ)	冷泉民部卿 為泰卿	冷泉民部卿 為泰卿		国会図書館「内裏和歌御会天明七年」(124-202)国立国会図書館。参考:「内院和歌御会天明七年」第40冊(853-177)	
天明7年 6月24日	17	月次御会	内裏	組題100首(2 ~4字題)光 格:浅茅月、恨 恋	光格御製部分は白紙(記録ナシ)	冷泉右衛門 督 為章卿	冷泉民部卿 為泰卿		国会図書館「内裏和歌御会天明七年」(124-202)	

天明7年 7月7日	17	七夕御会	内裏	七夕糸	光格御製はなし。後桜町院の御製が冒頭にあり。	冷泉右衛門 督 為章卿	冷泉民部卿 為泰卿		国会図書館「内裏和歌 御会 天明七年」 (124-202)	後桜町院、女 房達、出詠
天明7年 7月24日	17	月次御会	内裏	萩盛、虫吟露、 片恋	光格御製部分は白紙（記録ナシ）	冷泉民部卿 為泰卿	冷泉民部卿 為泰卿		国会図書館「内裏和歌 御会 天明七年」 (124-202)	
天明7年 8月24日	17	月次御会	内裏	組題100首（2 ～3字題）光 格：江月、寄虫 恋	光格御製部分は白紙（記録ナシ）	民部卿 冷 泉為泰卿	日野前大納 言 光祖卿		国会図書館「内裏和歌 御会 天明七年」 (124-202)	
天明7年 9月28日	17	月次御会	内裏	瀧紅葉、秋霜、 松久緑	光格御製部分は白紙（記録ナシ）	藤待従三位 飛鳥井雅威 卿	右衛門督 藤谷為敦卿		国会図書館「内裏和歌 御会 天明七年」 (124-202)	
天明7年 10月20日	17	当座御会（従関白家依 鶴献上也）	内裏	庭上鶴	今年よりいくよろづ代もにはの面にちぎりかさね んつるのけごろも	冷泉大納言 為泰卿	右衛門督藤 谷為敦卿		国会図書館「内裏和歌 御会 天明七年」 (124-202)	後桜町院出詠
天明7年 10月24日	17	月次御会	内裏	組題100首（1 ～2字題）光 格：鶯、雪	鶯：はるいまだあさ霜むすぶ呉竹にうくひすきな く糸の>どけさ、雪：ゆたかなる年のしるしと のも山もいく重かふかくつもるしら雪	右衛門督 藤谷為敦卿	右衛門督 藤谷為敦卿		国会図書館「内裏和歌 御会 天明七年」 (124-202)	
天明7年 10月25日	17	聖廟御法案 去六月分	内裏	組題50首（3～ 4字題）光格： 荷露成珠	蓮葉をふく夕風にしら露のみだる>いけに玉とこ ぞ見れ	右衛門督冷 泉為章卿	右衛門督冷 泉為章卿	講師：胤定 広橋弁	国会図書館「内裏和歌 御会 天明七年」 (124-202)	
天明7年 12月24日	17	月次御会	内裏	組題100首（1 ～3字題）光 格：里梅、女郎 花	里梅：きてみれば今をはるべと香をふかく難波の 里にさくやこの花、女郎花：秋風に打なびきては をみなへしかざしの玉のつゆぞこぼる>	藤待従三位 飛鳥井雅威 卿	藤待従三位 飛鳥井雅威 卿		国会図書館「内裏和歌 御会 天明七年」 (124-202)	「菊」題で提 出された謙光 の詠草「いく ちよの秋をか さねてしらさ くのさかりふ りせぬこ」の 重の庭」の傍 注として 「も>しきの 庭、後日取 替」（墨書） あり。この御 会和歌の基 は、宮廷歌人 の記録になる と思われる
天明8年 1月24日	17	和歌御会始	内裏	春到氷解	いく重にかとちし氷のとくるよりいけのこ>ろも 春になりゆく	藤待従三位	為敦	講師：民部卿 読師：俊親朝臣 発声：持明院前宰相	国会図書館「内裏和歌 御会 天明八年」 (124-202)	後桜町院、女 官達の出詠あ り

天明8年 1月27日	18	御当座	内裏	組題30首(2~4字題)光格: 正朔子曰	はつ春のけふおりにあふ子曰てひくや小松に千世をちぎらん	右衛門督	資矩	講師:良顕	国会図書館「内裏和歌御会天明八年」(124-202)	後桜町院出詠
天明8年 1月30日		天明の大火発生								
天明8年 2月~5月	18	天明の大火により内裏御会・仙洞御会なし(内裏和歌・仙洞和歌)								
天明8年 6月24日	18	月次御会 於仮殿初度	内裏	組題100首(2~3字題)光格: 早春、暮春、窓竹	早春:うちむかふこすの外山の朝がすみはる来にけりとたちわたりぬる、暮春:いつはあれどつきぬなごりは花鳥のいろかにくる>春のわかれち、窓竹:いまこ>にまどのくれたけながめてはわが九重のうてなをぞおもふ	民部卿	資矩		国会図書館「内裏和歌御会天明八年」(124-202)	天明の大火後、仮御所で初めて月次歌会が行われる
天明8年 6月25日	18	聖廟御法楽	内裏	組題50首(2~3字題)光格: 禰露、時雨過	禰露:はるばるとむかふこ>ろものどけしな山のたかねのかすむ朝戸出、時雨過:山風のこゑをのこしていつくにかはるもはやきしぐれなるらん	為章	為章	講師:胤定	国会図書館「内裏和歌御会天明八年」(124-202)	
天明8年 7月7日	18	和歌御会	内裏	七夕月	七夕のあまのかはらに澄わたる月やこよひのふなでなるらん	藤侍従三位	為章		国会図書館「内裏和歌御会天明八年」(124-202)	後桜町院、女官達、出詠
天明8年 7月24日	18	月次御会	内裏	花薄、松虫、忍恋	光格御製部分は白紙(記録ナシ)	右衛門督	資矩		国会図書館「内裏和歌御会天明八年」(124-202)	
天明8年 8月24日	18	月次御会	内裏	組題100首(2~4字題)光格: 鹿声近、紅葉曝錦	鹿声近:おもはずもことしの秋は野へちかくしかのなくねをなれて聞也、紅葉曝錦:たれもいまとひ来てみよと山姫のみみちのにしき日にさらすらし	藤侍従三位	資矩		国会図書館「内裏和歌御会天明八年」(124-202)	
天明8年 9月24日	18	月次御会	内裏	朝紅葉、夕紅葉、夜紅葉	光格御製部分は白紙(記録ナシ)	右衛門督	雅威		国会図書館「内裏和歌御会天明八年」(124-202)	
天明8年 10月24日	18	月次御会	内裏	組題100首(1~3字題)光格: 柳、逢恋	柳:あさ風のくしげづらしさほ姫のねくたれがみの青柳のいと、逢恋:新まくらかはせるこよひもるともおもはゆながらちぎるむつこと	藤侍従三位	資矩		国会図書館「内裏和歌御会天明八年」(124-202)	
天明8年 11月24日	18	月次御会	内裏	月前千鳥、網代、江遠望	月前千鳥:浦とをくともなふ千どりてる月の天の戸わたる声もさやけき、網代:よしの河あじろのとこによる氷魚ははる見しはなの浮ぶ面かけ、江遠望:すみの江や末はるばるとしら波のみるめにつ>く淡路しま山	民部卿	為敦		国会図書館「内裏和歌御会天明八年」(124-202)	
天明8年 12月24日	18	月次御会	内裏	組題100首(2~3字題)光格: 梅盛開、名所松	梅盛開:又たくま難波の梅のはなざかり浦ふく風もふかくかほりて、名所松:住の江やきしの姫松とし毎にみどりそひつ>いやさかふかけ	為章	為泰		国会図書館「内裏和歌御会天明八年」(124-202)	